

# 様々な建築物部位の外装材用 外圧係数・風力係数に関する研究集会

建築物の外装材耐風設計では、適切かつ合理的な風荷重の算定が求められる。サッシ・カーテンウォール、屋上のパラペット、風雨を遮る庇、日射を遮るフィン、バルコニー手すりなど一括りに外装材と言っても非常に多くの部位が存在し設計では頭を悩ませている。外装材が飛散することによる2次的被害防止の観点からも、安全に十分留意した設計が必要である。

建築物荷重指針に示される外装材用ピーク外圧係数・風力係数は、従来から行われてきた風洞実験による空力データベースや最新の知見に基づいて定められたもので、継続的に改訂が続けられている。また、最近「実務者のための建築物外装材耐風設計マニュアル（日本建築学会）」が出版され、外装材用のピーク外圧係数・風力係数の資料も充実し、耐風設計における外装材設計の重要性も認識されてきた。しかし建築物の外装材形状は様々であり、作用する風向によっても風力の特性は異なる。データベース構築にも多大な実験と考察を必要とする。設計デザインの様々な要求に対してどこまでのモデル化が可能か。この研究会では、建築物の外装材用外圧係数・風力係数のモデル化について、その現状や問題点を把握し、今後の研究の方向性等について幅広く議論し、より合理的な風荷重算定法を目指した意見交換の場としたい。奮ってご参加頂き、活発なご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

と き： 2016年3月3日（木）13:30～16:30（予定）

ところ： 新宿NSビル 会議室 3-I

<http://www.shinjuku-ns.co.jp/about/access.php>

問合先：

東京工芸大学・風工学研究拠点・建築構造 II 研究室

046-242-9547

江藤美鶴

[etoh@arch.t-kougei.ac.jp](mailto:etoh@arch.t-kougei.ac.jp)



## プログラム

- 13:30~13:40 主旨説明
- 13:40~14:05 風圧係数のピーク値の評価 染川大輔（大林組）
- 14:10~14:35 鉛直隅欠きを有する高層建築物のピーク外圧係数  
－風洞実験による検討－ 時崎雅史（東京工芸大学）
- 14:35~15:00 鉛直隅欠きを有する高層建築物のピーク外圧係数  
－設計用ピーク外圧係数の提案－ 益山由佳（風工学研究所）
- <休憩 10分>
- 15:10~15:35 通気性材料のピーク風力係数 相原知子（大成建設）
- 15:35~16:00 建物に付加したフィン，壁等に作用する風力係数の評価  
菊池浩利（清水建設）
- 16:00~16:15 質疑応答
- 16:15~16:25 まとめ 河井宏允（京都大学名誉教授 東京電機大学客員教授）  
司会：勝村 章（風工学研究所）